OPERA＋GALLERY KWON

設計　矢板久明建築設計研究所
施工　池田建設
所在地　東京都港区南青山

OPERA＋GALLERY KWON
architects: YAITA AND ASSOCIATES

157頁：北側全景．「IL TEMPO（148-156頁）」と同様に北側のファサードはフルハイトのサッシュで覆われている．／上：東側外観．申請上，地下1階＋地上3階となる．1階から3階は1フロア1住戸の集合住宅．

地下1階GALLERY KWONの夜景を見る．

GALLERY KWONのパーティション．パネル自体がゆっくり色を変え外光を透過させて床や壁にパターンを映し出す．

ここは，現在携帯電話のカラー液晶パネルで世界シェア40%を誇る先端企業が所有するギャラリーである．この青いパネルはECパネルと呼ばれ，液晶技術が登場したころの対抗技術であったが，反応の遅さが時代の要請に合わず忘れ去られた技術であったとのことである．

エレクトロニクス技術の世界にあって日々合理性の追求に身を浸していると，このパネルの透き通った青の美しさと，ゆっくりとした反応にふたたび目をやるとかえって新鮮な驚きがあったそうである．このパネルに，形を与え，アートから建築表現の分野での展開の可能性を探るためにこのギャラリーはつくられた．

都会の中で，エレクトロニクス技術を使いながら，現れた世界は不思議にも自然の空や海の青や，雲の流れる早さといった自然のメタファーを喚起させる癒しの空間であった．（矢板久明）

GALLERY KWONの入口．

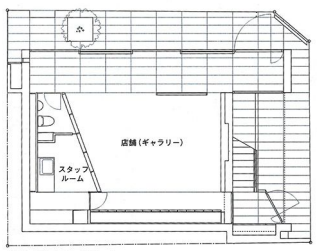
青山通りと表参道の裏手にこの敷地はあり，1階を店舗とし，上階を集合住宅とした建築である．外から見ると集合住宅らしく見えないかもしれないが，ここにテーマとしたことがある．

それは多くの集合住宅で通りに面してつくられているバルコニーに，あらためて感じた疑問にはじまっている．これらのバルコニーを郊外で見るのと都会で見るのとでは，同じものでも大きな違いがあるのである．

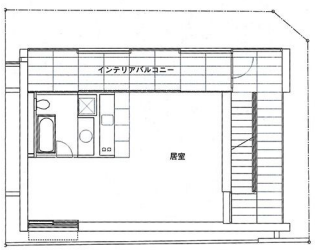
都会では人がそこに出て外気を楽しんでいる光景は稀であり，時々見かける洗濯物は，恥ずかしげに干されているようで，建物まで引きの取れない都市部では生活そのものが露になり過ぎ，かえって建物と街とのかかわりを切断しているような違和感がある．今さらながら，今年解体された原宿の同潤会アパートでは，外壁に直接開けられた窓がさまざまに演出され，積極的に街の雰囲気をつくり出していたことが思い出される．やはり都市の建築は街を楽しみ街を演出するものであって欲しい．

この建築ではこの点を再考し，バルコニーを内部に取り込み，日本建築の土間的な場所として扱うこととした．ここをインテリアバルコニーと呼んでいるが，玄関でもあり，部屋の延長としても，半戸外としても機能する場所である．この内にも外にもなるという空間とするために，掃き出しの大きな窓をつくることにした．天気のよい日には，ここを開けて風を入れれば戸外にいるように街を楽しむこともできるし，グリーンをたくさん置いて眺めてもよい．室内との仕切りは網戸を張った鍵付きのガラリ戸があり，窓を開けていてもある程度の安心感を保てる設えである．敷地の制約から階段を除けば1住戸約55m²なので，居住用からSOHOまでの柔軟な使い方を想定したワンルーム形式とした．ワンルーム形式の場合，このインテリアバルコニーは，部屋の使い方をより柔軟に広げてもくれるものである．

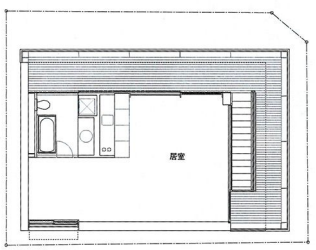
ここで提案した室内化されたバルコニーは，都市における集合住宅のあり方としてひとつの解法となり得る可能性を感じている．　（矢板久明）



地下1階平面　縮尺1/200



1-2階平面



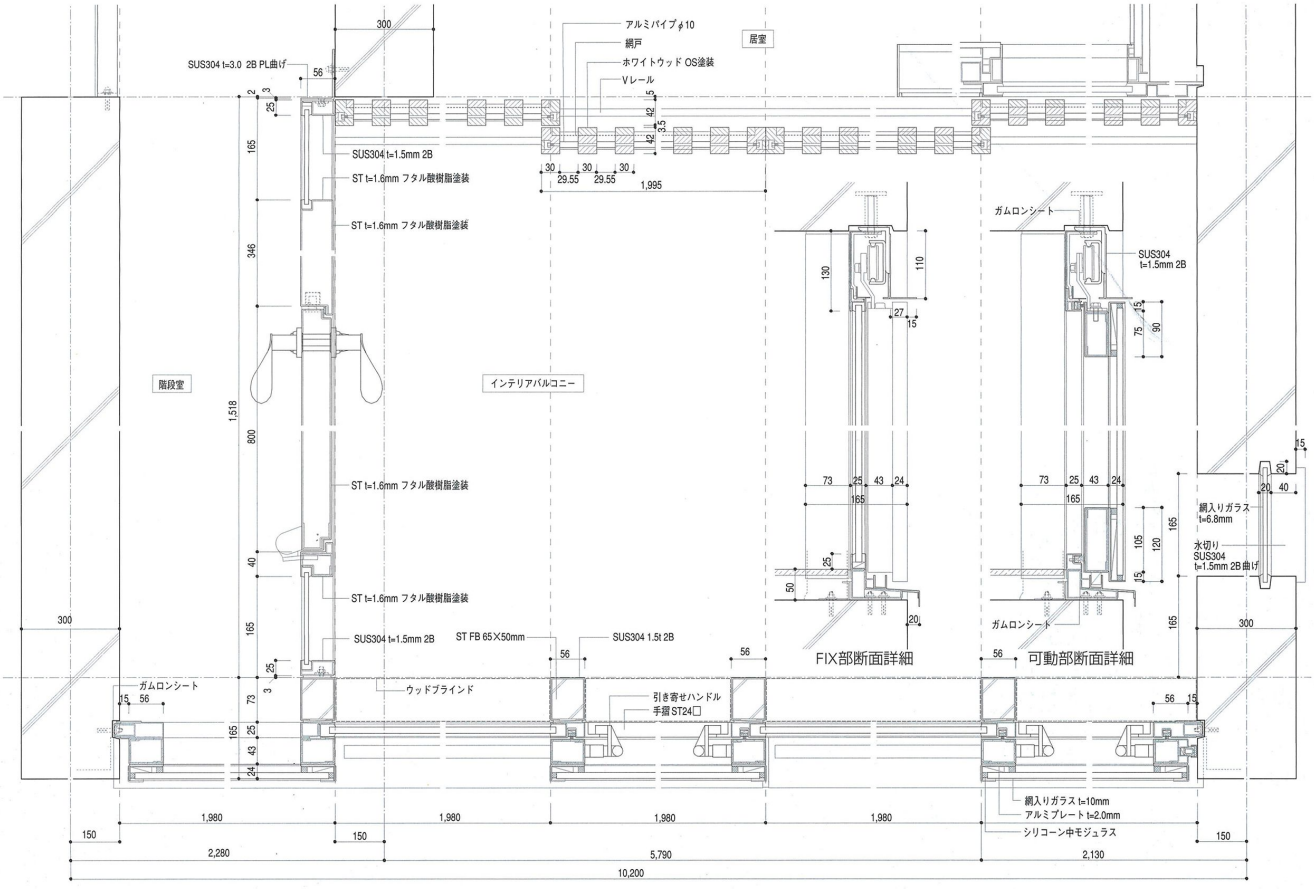
3階平面

3階住戸の外部バルコニー．申請上は3階となるが，一般の人にわかりやすいように部屋番号は401としている．

1，2階の住戸は「インテリアバルコニー」として内部化されたバルコニーをもつ．

2階住戸内部．インテリアバルコニーに面する北側は全面開口となっているため，東側は大きな開口はとっていない．

3階住戸内部．インテリアバルコニーをもたないこの住戸は北側と西側が全面開口となっている．



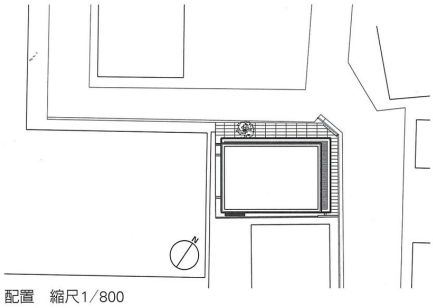
インテリアバルコニーのサッシュ回り詳細　縮尺1/12

サッシュ足下詳細.

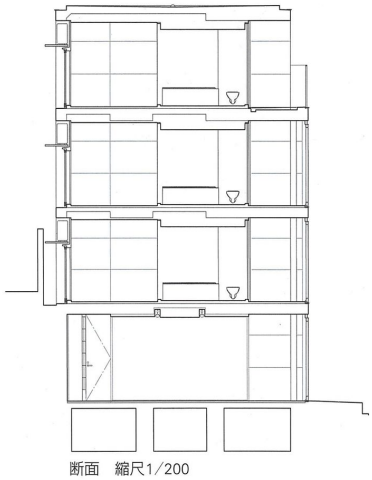
インテリアバルコニーの窓は通りに対して1枚のスクリーンとして立ち上がり，街区としての輪郭を描き出す．このスクリーンは石造建築のように内部空間の内法で決定されており，正面から見たコンクリートのフレームの内側で均等に1,980mmで割り付けられている．コンクリート型枠，石材も同じ寸法基準で割り付けられている．ガラスはコンクリートと同様の物質性を獲得するよう，サッシュ枠をアングルで構成し，ガラス表面より金属が出ないようなディテールとした．また，IL TEMPOと同様サッシ回りには極力シールを見せない工夫をし，コンクリートとステンレスプレート製サッシュが直接対比され，お互いの材料としての美しさを引き立てあうようなディテールを目指した．

（矢板久明）

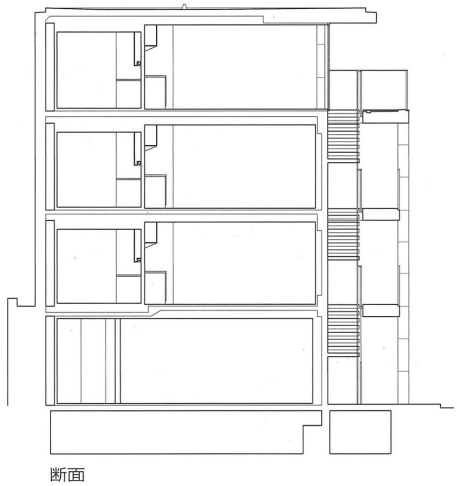
設計　建築　矢板久明建築設計研究所
　　構造　構造設計社
　　設備　ZO設計室
施工　池田建設
敷地面積　106.24m²
建築面積　71.72m²
延床面積　256.56m²
階数　地下1階　地上3階
構造　鉄筋コンクリート造
工期　建築　2002年3月〜2002年12月
　　店舗内装　2003年6月〜2003年7月
撮影　本誌写真部 大沢誠一



配置　縮尺1/800



断面　縮尺1/200



断面